

インターネット上での個人特定の危険性について

埼玉県教育委員会

インターネット上では、SNSなどへの投稿やプロフィール欄の情報などから、個人を特定されることがあります。県内でも、不適切な投稿をした生徒が氏名や顔写真、住所などを特定され、その情報をインターネット上で拡散されてしまったことがあります。

個人特定の方法はさまざまです。詳細な個人情報をのせていなかったとしても、断片的な情報を集め、それらを組み合わせることで個人が特定できるケースもあります。今回は、そんなインターネット上での個人特定の危険性についてお話ししたいと思います。

断片的な情報から個人特定された例

インターネット上の断片的な情報からどのようにして個人が特定されるのか、ここでは、SNSを利用している生徒を例にあげて説明したいと思います。

A男のSNSのプロフィール



A男のプロフィールには、詳細な個人情報はおろか、個人情報につながる可能性があるものは何ものせられていません。これでは、個人の特定は不可能なように思えます。しかし、A男のSNSを見ていくと……

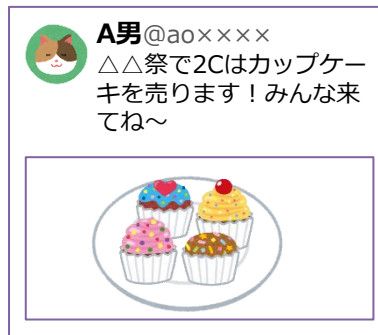


投稿1



家の近所の店の写真により、住んでいる地域が特定

投稿2



学校行事の名称(△△祭)から、学校名が特定

投稿3



友だちの投稿から、顔写真と名字(×川)が特定

これら三つの投稿からわかる情報を組み合わせることで、以下のように個人を特定することができます。

「〇〇地区に住む、□□学校の2年C組、×川A男」



個人が特定されるのは、不適切な投稿をした場合だけではなくありません。ストーカ行や、なりすましなどを目的に個人を特定されるケースもあります。

インターネットに投稿するときは、自分や友だちの個人情報につながる可能性のあるものが含まれていないか、必ず確認するようこころがけましょう。